

ふるさとわがまちづくり

舞木町自治区

「舞木町」の由来

市街地から北へ向かい県道深見亀首線を左手に折れると西側に広がる集落が舞木町です。

舞木という地名は全国各地に見られますが、近くはとなり岡崎市にもその地名があります。

そもそも舞木という地名の由来は諸説あるようですが、いずれもはっきりとはしておらず、古くからこの様に呼ばれていたと思われれます。

舞木廃寺塔址

また、奈良時代にさかのぼると、この地域には大きな寺院があり、当時の有力な地方豪族の手により七堂伽藍のお堂や塔がそびえ、猿投地区を威圧した僧兵(僧侶)の数も数百という大勢力を持ち、権力を笠に傍若無人な行動に日夜おそれをなしていたようです。そして武士もその例外ではなかったのです。



舞木廃寺塔址



しかし、その後仏教の衰退により、長い間抑圧されていた武士らが、突然寺院を焼き打ちして一夜にして跡形もなくなったという話も伝わっています。

今では往時を偲ぶことはできませんが、舞木廃寺塔址:国指定史跡・舞木中心部より約800m南東に位置し、塔心礎[礎石:直径約1.6mで中央に舍利口を持つ幅35cmの柱座が環状に彫られている]に立ちその建物の大きさを想像するだけです。

「舞木町」の桃

舞木町は県内でも有数の果樹の産地でもあります。桃、梨等が栽培され、栽培面積47ha、生産農家約50戸にて各地に出荷しております。

春ともなれば桃、梨の花がピンクと白のグラデーションを奏でます。

まちづくり活動

地域資源を生かしたまちづくり構想を策定し、平成14年度に、舞木町集落センターの南隣にある自治区所有林を下刈りし、散策路の整備と紅葉等の植栽をしました。

平成15年度は、この散策路の終点に見晴台の建設をするとともに、周辺に紫陽花200本や四季桜、紅葉の植栽をしました。

見晴台からの眺望



らの人々が集う様な環境づくりに向け、後進に伝えていきたいと思ひます。

この見晴台から見下ろす桃源の里の風景は、絶景です。今後もこの施設を地域住民や来訪者の憩いの場として、守り育てていきたいと思ひます。

近年は、転入される方も多く、より住み良いまちづくりに向けて日々努力をしています。それに伴い、各事業に力を入れ、他か

舞木自治区データ

(H19.4 現在)

設立: 昭和42年
世帯数: 136世帯
: 104世帯(昭和51年)
組数: 12組
面積: 1.71 Km²
回覧: 月1回
ちびっ子広場:
ふれあい広場: 1箇所
防犯灯設置箇所: 35箇所
小学校: 加納小学校区
自治区会館: 舞木町集落センター